

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「自立」「協調」「進取」の校訓の下、自分自身で考え、行動できる人、自分勝手ではない優しい人、進んで新しいことに取り組める人の育成を行う。
- 1 基礎学力の充実で、確かな学力を身につけ、各自の将来の可能性を広げる。
 - 2 キャリア教育を計画的に実施し、自らの目標を、自ら切り拓くことができる、たくましく生きる力を育成する。
 - 3 学校生活の充実、活性化により、集団における行動規範、社会性を身につけ、よき社会の構成員を育成する。

2 中期的目標

- 1 基礎学力の充実
 - (1) 授業改革を進め、学習に積極的に取り組み、確かな学力を実感できる教育環境を実現する。
 - ア 生徒の、学習への興味・関心を一層喚起し、より理解を深める授業を実施するため、全ての教室のICT活用環境を整備する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、授業内容の+評価を、前年度比5%以上向上させる。(平成26年度55%)
 - イ アクティブ・ラーニングを始めとする、生徒の積極性・能動性を引き出す授業方略を実施する。
 - ※ 授業アンケートにおける、授業分析の評価を向上させる。(平成26年度3.18)
 - ウ 幅広い知識と教養を身につけ、新たな学習への意欲を高揚できるよう、読書を促進し、図書館整備を行う。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、読書状況を改善する。(平成26年度29%)
 - (2) キャリア教育の計画的実施による、たくましく生きる力の育成。
 - (1) 「総合的な学習の時間」を活用し、3年間を通じた、計画的なキャリア教育を実施する。
 - ア 各学年の「総合的な学習の時間」において、キャリア教育を主軸とした学習を実施する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、進路関係の+評価を、80%以上にする。(平成26年度78%)
 - (2) 生徒個々の意欲・能力を伸ばし、進路実現の可能性を拡大する。
 - イ 各進路希望別ゼミの充実を図り、各自の希望進路が実現できる能力を育成する。
 - ※ 就職決定状況の高水準維持(平成26年度内定者80名)、進学講習、勉強合宿等学習機会の設定。
 - 3 教育活動の充実で、規範意識と社会性を身につけた、よき社会の構成員の育成。
 - (1) 学校行事、部活動の活性化を図り、規範意識と社会性を育成する。
 - ア 生徒会活動、部活動を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
 - ※ 部活動参加率60%以上への向上。(平成26年度47%)
 - (2) 地域との連携の中で、社会性を育成し、各自が、自信と誇りを持てるように、能力と意識を高める。
 - イ 地域連携活動への参加を促進し、自信と誇りを高める。
 - ※ 各種地域活動への参加と、学校教育自己診断(生徒)における、地域活動参加の+評価を、50%以上にする。(平成26年度44%)
 - 4 学校運営組織の充実と指導力向上
 - (1) 授業研究を積極的に進め、経験の少ない教員の授業力の向上を図る。
 - ※ 初任者育成体制の確立、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>生徒の肯定的評価80%以上は、「将来の進路や生き方について考える機会がある」82.5%、「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」80.6%、「成績の内容や他人に知られたくないことなどのプライバシーは守られている」82.3%であった。進路指導、キャリア教育に関する評価がきわめて高く、教育方針の柱の一つ「キャリア教育の充実」が、生徒の満足の得られる形となっている</p> <p>肯定的評価70%以上は、「学校へ行くのが楽しい」「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」「先生は、自分が努力したことを認めてくれる」など10設問ある。日々の教育活動が、生徒に受け入れられている。</p> <p>低い評価となったのは「学校の図書室を利用したことがある」32.5%。読書習慣の向上・定着をめざした取り組みが結果に表れておらず、更なる工夫が必要。</p> <p>保護者の肯定的評価80%以上は、「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」「学校の雰囲気がよい」「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」など6問あった。肯定的評価70%以上は「先生は子どもを理解している」「学校の生徒指導方針に共感できる」など8問である。平素、保護者と連携して学校生活の充実に努めているところが評価された。</p> <p>評価の低かったのは「子どもは部活動に熱心に取り組んでいる」42.5%、「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」48.9%等である。</p> <p>部活動の活性化は、まだまだ不十分で、さらなる向上が求められる。また、わかりやすく、楽しい授業の実現をはかるため、一層の改革に取り組みたい。</p>	<p>第1回学校協議会(平成27年5月27日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れている。教員の説明を3分の1にすることで、生徒が前向きに取り組んでいる。 ・部活動指導では、大阪市は、外部指導者の活用を積極的に進めている。生徒は、専門的な指導者による指導を望んでいる。 ・学校の取り組みとして、あれもこれもではなく、絞り込みをした方がよい。一つ一つが複合効果をもたらす組み立てにすることが必要。 ・アルバイトの実態、労基法違反がないかどうか、お金の使い道など、調査し、実態を踏まえて対策を考えてはどうか。 <p>第2回学校協議会(平成27年10月28日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトの就業について、法律的な知識のないままで働いている生徒が多い。このことの学習ができるよう。 ・生徒の目標を持たせる教育の実践が必要。プライドが持てる学校、自分たちにも可能性があるぞと思わせる教育が大事。 <p>第3回学校協議会(平成28年1月27日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトの実態、経済状況、必要性も含め把握して指導方針の検討を更に進める。 ・アルバイトの帰宅時間、週の回数、曜日などのルールを定め、届をきっちり出させて指導を継続するとよい。 ・部活動は、日程や時間を柔軟に設定し、より参加しやすい形態の工夫を進める。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の充実	(1) 確かな学力を実感できる教育環境の実現 ア ICT活用環境の整備 イ 生徒の積極性・能動性を引き出す授業 ウ 読書の促進と図書館整備	(1) ア・無線LAN環境を導入し、授業において、教師がタブレットPC等を活用した授業が実施できる環境整備を進める。 ・ICT活用環境の整備、それを活用した授業改革を実施推進するためのチームの活動を促進する。 イ・アクティブ・ラーニングの授業方略の導入等、指導教諭の指揮の下、授業改善を実施する。 ウ・図書館整備を実施し、学習に利用しやすい環境づくりを進め、読書習慣を定着させる。	・学校教育自己診断(生徒)によるICT活用授業の+評価5%以上の向上(H26は62%) ・学校教育自己診断(生徒)による能動的な授業内容の+評価5%以上の向上(H26は59%) ・授業アンケート「授業分析」「生徒意識」項目のポイントの上昇(H26は3.18、3.06) ・学校教育自己診断(生徒)による読書状況10%以上の改善(H26は29%)	ア・図書館内に無線LAN環境を整備し、理科、社会科、国語科等の授業において、ICT活用授業を実施した。 ・有志教員による活用推進をはかり、研修も実施した。しかし、環境整備も初期段階であり、今後積極的な活用推進を図る必要がある。 ・授業アンケートの「授業分析」「生徒意識」項目のポイントは、3.04、3.06であり、更なる改善が求められる。(○) イ・国語科を中心にアクティブ・ラーニングの研究授業等を実施した。今後、他教科にも授業改善の取り組みを広げつつある。(◎) ウ・図書館整備を進めている。グループワークのできる教室整備も実施予定である。(◎) ・学習時の図書館利用を推進しているが、学校教育自己診断による図書館利用状況は34%と、一層の改善が必要。(○)
2 たくましく生きる力の育成	(1) 3年間の計画的なキャリア教育 ア 「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育 (2) 進路実現の可能性を拡大 イ 各進路希望別ゼミの充実による希望進路の実現	(1) ア・「総合的な学習の時間」検討チームによる、学習計画の研究と実施検証を進める。 ・「カタリ場」「ガイダンス」等、外部人材を活用した、より広い観点からのキャリア教育を充実させる。 (2) イ・年間を通じての進路希望別ゼミを、「総合的な学習の時間」との連携の中で計画的に実施する。 ・進学講習、勉強合宿等、進学希望者の意識・学力の向上をめざした教育活動の実施。	・「総合的な学習の時間」でのキャリア教育実施回数拡大(H26は半数) ・学校教育自己診断(生徒)による進路関係の+評価を80%以上に向上(H26は78%) ・就職希望者全員の内定実現 ・進学希望者の進路決定状況で前年度を上回る(H26は4大45名、看護系8名)	ア・「総合的な学習の時間」委員会を立ち上げ、今年度実施の検証と、来年度本格実施の計画立案を行った。キャリア教育を中心に、3年間を通じた計画ができつつある。(○) ・学校教育自己診断による進路関係の評価は81.2%と向上している。(◎) イ・進路希望別ゼミを年間を通じて実施した。学校斡旋就職68名、公務員2名、自己就職8名等ほぼ全員の就職希望を実現した。未定は19名である。(○) ・進学講習、勉強会等を実施した。4大30名、短大25名、看護系進学9名の他、専門学校進学66名であった。(◎)
3 よき社会の構成員の育成	(1) 学校行事、部活動の活性化 ア 集団の中で人と調和しながら活動できる能力の育成 (2) 地域との連携の中で、社会性を育成 イ 地域連携活動参加を促進し、自信と誇りを高める	(1) ア・新入生全員加入期間の実施等、積極的な部活動参加促進活動を展開し、部活動参加率の向上を図る。 ・朝点呼の全面実施、アルバイト指導の徹底、授業規律の確保等、学習を重んじる姿勢、社会人としての規範を身につける指導を展開する。 (2) イ・地域あいさつ運動、校区生徒会交流行事等へ積極的に参加し、地域連携を進めるとともに、生徒の自尊感情の育成を図る。 ・行事公開、授業公開により、開かれた学校づくりを進めるとともに、誇りを持てる学校づくりを進める。	・通年の1年生部活動加入率で60%を上回る(H26は46%) ・遅刻回数は前年度を下回るのべ5000回以内とする(H26は5200) ・学校教育自己診断(生徒)による「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会がある」の+評価を70%以上に向上(H26は65%) ・学校教育自己診断(保護者)による学校行事参加の評価を65%以上に向上(H26は56%)	ア・部活動加入促進のため、新入生全員加入期間を4月中に設けたほか、7月9月にも、加入促進期間を実施した。1年生の加入状況は思わしくなく(45%)目標達成に至っていない。(△) ・朝点呼・SHRを全面実施した。授業遅刻の抑制になっている。1時間目授業準備との兼ね合いから、1限開始時間の検討が課題である。(○) イ・あいさつ運動の他、集会での指導等、社会性育成に積極的に取り組んでいる。学校教育自己診断による「社会のルールを学ぶ機会がある」評価は73%と向上している。(◎) ・行事公開、地域連携を進めているが、保護者の学校行事への参加状況は54%と、まだまだ課題がある。(△)
4 学校運営組織の充実と指導力向上	(1) 経験の少ない教員の指導力の向上	(1) ・授業研究、ケース研究の機会を拡大し、授業力の向上、生徒指導力の向上、教育相談技術の向上を図る。	・研修成果共有機会を年間で5回以上設定する ・学校教育自己診断(生徒)による相談に関する+評価5%以上の改善(H26は56%)	・校内研究授業を年間を通じて実施した。学校教育自己診断による「研修成果の共有」の評価は29%であり、まだ不十分であり、改善が求められる。(△) ・学校教育自己診断による相談に関する評価は56%と、前年とほぼ同水準であり、更に研修・工夫を重ねる必要がある。(○)